

メタセコイアの発見と普及——三木 茂博士の発見から75年——

塚腰 実

大阪市立自然史博物館

Discovery and spread of *Metasequoia* (Dawn Redwood)
—75 years from the discovery by Dr. Shigeru Miki—

Minoru Tsukagoshi

Osaka Museum of Natural History, 1-23, Nagai Park, Higashi-sumiyoshi, Osaka, 546-0034, Japan

Key words: discovery, *Metasequoia*, Shigeru Miki, spread

メタセコイア属 (*Metasequoia*) は、三木 茂博士 (1901–74) によって、1941年に化石をもとに新属として設立されたヒノキ科の落葉針葉樹である。三木博士は、それまでヌマスギ属 (*Taxodium*) やセコイア属 (*Sequoia*) とされていた化石の中に、それらとは異なる未知の植物を見出し、メタセコイア属 (*Metasequoia*) と命名し、新組合せの化石種として *M. disticha* (Heer) Miki と *M. japonica* (Endo) Miki を発表した (Miki, 1941)。1946年、中国湖北省の山村の神木とされていた針葉樹が、メタセコイア属の植物であると同定され、胡先驊博士によりその生存が発表された (Hu, 1946)。その後、1948年に、胡博士と鄭万鈞博士により、現生種である *M. glyptostroboides* Hu et Cheng が記載された (Hu and Cheng, 1948)。メタセコイア属は1属1種で、現生種は、メタセコイア (アケボノスギ、イチイヒノキ) の和名で呼ばれている。

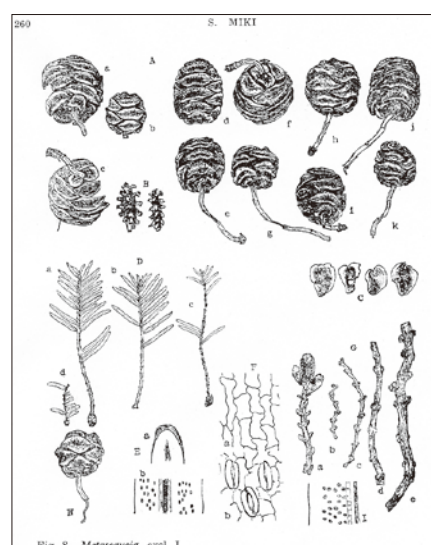


図2. メタセコイア属の新属記載の論文におけるスケッチ (Miki, 1941). A–G, *Metasequoia disticha* (Heer) Miki; A・B, 球果; D, 小枝; E, 葉の先端と気孔の配列; F, 表皮; G, 小枝; H, *Metasequoia japonica* (Endo) Miki; I, ヌマスギの気孔配列。



図1. 大阪市立自然史博物館に所蔵されている三木 茂コレクション。日本各地の新第三系～第四系から採集されたメタセコイア属 (*Metasequoia*) の枝、球果、種子等が、木枠に紙を貼った「障子」のようなマップに並べられている (左)。 *M. disticha* (Heer) Miki の枝 (中央; OSA F2481) と球果縦断面 (右; OSA F2489)。これらは地層から取り出された圧縮化石である。コレクション全体は約32,000点におよぶ。OSAは、大阪市立自然史博物館植物標本庫を示す。



図3. 大阪市立大学理学部生物学科の研究室での三木 茂博士（左）と粉川昭平博士（中央，1927-2001）。右は来客のカスプリギル博士（Kasapligil, B.）。1964年撮影。粉川博士は、古植物学の研究・教育とともに、メタセコイア保存会事務局の会計として、多大な貢献をなされた。



図4. 最初に発見されたメタセコイア（*M. glyptostroboides* Hu et Cheng）の巨木。中国湖北省磨刀溪。1988年6月8日，斎藤清明氏撮影。発見当時にあった祠はなくなっている。巨木の根元に三木博士の奥様，三木民子氏が立られている。2003年9月時点で，樹齢400年，直径2.4m，高さ35m。樹齢が古くなると，スギの樹形に似てくるように思われる。

1948年，アメリカ合衆国の古植物学者チェイニー博士（Chaney, R. W.）は，湖北省の現生種を調査し，種子をアメリカに持ち帰り苗木を育成した。チェイニー博士は日本での保存活動と呼びかけ，三木博士はメタセコイア保存会を結成し，1950年にアメリカ合衆国から保存会に100本の苗木が贈られた。保存会は全国の研究機関や自治体にこの苗木を配布するとともに，苗木の育成を行い，市民や団体に頒布した（岡野・塚腰，2015）。現在，メタセコイアは全国に広まり，日本各地で美しい景観を作っている。2016年は，三木博士によるメタセコイア属の発見から75年，胡博士による現生種生存の発表から70年になる。



図5. 現在は大木となっている1950年にアメリカ合衆国から贈られたメタセコイア。大阪府交野市にある大阪市立大学理学部附属植物園。三木博士は三代目の園長を務めた。大阪市立大学にメタセコイア保存会の事務局があり，この植物園を中心にメタセコイアの苗木の普及活動が行われた。この木から挿し枝を取り，苗木を育成するとともに国内の他の機関からも苗木を取り寄せ，全国に発送した。1954年には，4,426本の苗木を発送している。来園者はメタセコイアの発見と普及の歴史を記憶に刻んでいる。



図6. 大阪市立大学理学部附属植物園のメタセコイア林。1950年にアメリカ合衆国から贈られた苗木からの挿し木が大木となっている。タイワンスギ（*Taiwania cryptomerioides* Hayata），スイショウ（*Glyptostrobus pensilis* (Stout.) K.Koch），コウヨウザン（*Cunninghamia lanceolata* (Lamb.) Hook.）なども植えられ，大阪層群の時代を思わせる「太古の森」となっている。自然の地形を活かした植物園で，園内には花崗岩と大阪層群の不整合を観察できる。

Hu, H. H., 1946. Notes on a Palaeogene Species of *Metasequoia* in China. *Bulletin of Geological Society of China*, **26**, 105-107.

Hu, H. H. and Cheng W. C., 1948. On the New Family Metasequoiaceae and on *Metasequoia glyptostroboides*, a living species of the genus *Metasequoia* found in Szechuang and Hupeh. *Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology, New Series* **1**, 153-161.

Miki, S., 1941. On the change of flora in Eastern Asia since Tertiary Period (I). The clay or lignite beds flora in Japan with special reference to the *Pinus trifolia* beds in Central Hondo. *Japanese Journal of Botany*, **11**, 237-303.

岡野 浩・塚腰 実，2015. メタセコイアと文化創造—植物的社会デザインへの招待—。49p. 大阪公立大学共同出版会，大阪。

（2016年6月30日受付，2016年7月7日受理）